

三井記念 病院通信

Mitsui Memorial Hospital PR Magazine

2024年春号

[特集]

整形外科

脊椎センター

●三井記念病院の登録医紹介

秋葉原・胃と大腸肛門の内視鏡クリニック

病院内探検ツアー

特集

すすむ医療



救える命がそこにある。
新しい医療技術、新しい薬。
日進月歩で進んでいく医療。

医療技術の進歩に伴い、医療の現場はどういうに変化しているのか。
新しい技術とは一体どのようなものなのか。
三井記念病院通信では、こうした実情を医療の最前線で活躍する専門医がひも解いていく
「特集 すすむ医療」を企画しました。
病気についての正しい知識を身につけ、
早期発見・早期治療に取り組んでいきましょう。

整形外科 脊椎センター

脊椎とは、一般的に「背骨」といわれる部分を指します。この部分に現れる様々な病気を脊椎脊髄疾患と呼び、腰痛や足のしびれを呈する腰部脊柱管狭窄症がその代表例です。

三井記念病院の整形外科脊椎センターでは、脊椎疾患に関するすべての領域に対応しています。脊椎や手足の神経(末梢神経)の手術では1985年から顕微鏡の活用を開始。近年では最新鋭の手術用顕微鏡やコンピュータ支援手術を取り入れるなど、先進的な治療方法で多くの患者さんの診療にあたってきました。

脊椎センターの特徴や今後の取り組みについて、今年の4月から整形外科科長／脊椎センター副センター長に着任された安野雅統医師にお話しを伺いました。

Interview 安野 雅統 医師

整形外科 科長、脊椎センター 副センター長

2006(平成18)年 新潟大学医学部医学科卒業
2008(平成20)年 東京大学整形外科学教室入局
その後、国保旭中央病院、三楽病院、
武藏野赤十字病院、
都立墨東病院救命センターなどの
関連病院勤務
2019(平成31)年 虎の門病院整形外科 医員
2020(令和2)年 虎の門病院整形外科 医長
2024(令和6)年 三井記念病院整形外科 科長
現在に至る



—先生のご経歴と、中でも脊椎を専門とした理由について教えてください。

2006年に新潟大学を卒業し、初期研修医として東京大学医学部附属病院・静岡県の藤枝市立総合病院に勤めました。その過程で、治療の結果がすぐに出て、機能面に関わることができる整形外科に魅力を感じました。整形外科では若いうちから手術に携わることができたため、実際に自分で手術を計画し、手を動かして治療する面白さを実感できたことも理由の一つです。

その後、5~6年ほど様々な施設で整形外科診療や救急医療に携わりました。中でも特に脊椎を専門とする先輩方の手技の美しさに惹かれました。また、脊椎脊髄疾患は原因をよく調べて、チームのメンバーで十分相談した上で手術を含めた治療を施しても、なかなか良くならないこともあります。そうした一筋縄ではいかない病態に対して、日々、診療・手術技術が日進月歩で進んでいく奥深さにも魅せられ、脊椎を専門としました。

誰にでも起こりうる疾患 「腰部脊柱管狭窄症」

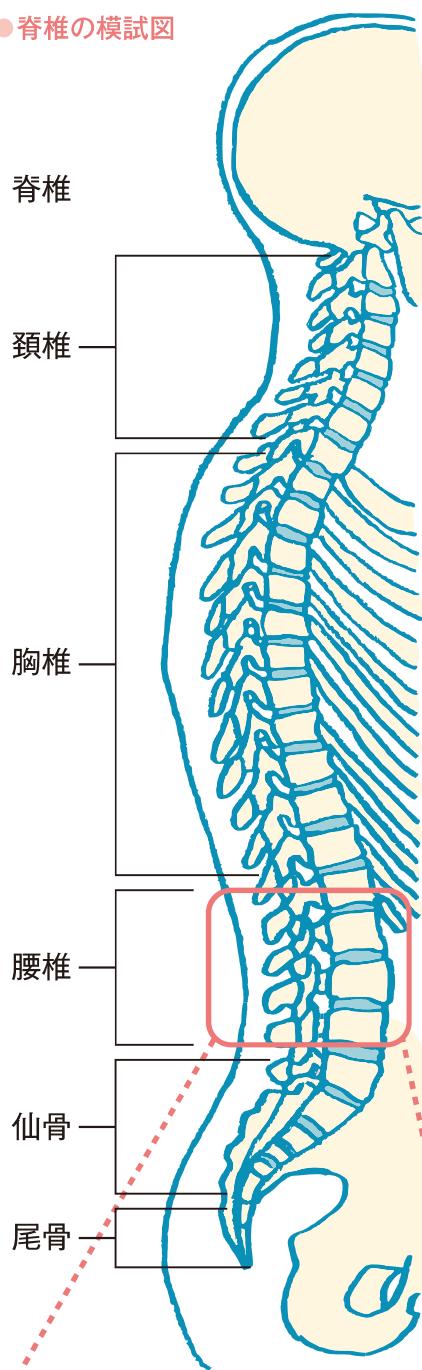
—脊椎でよくある疾患について教えてください。

代表的な疾患は「腰部脊柱管狭窄症」です。脊椎の内部には細長い管(脊柱管)が通っており、管の中に脳から腰、そして手足へつながる神経が伸びています。この脊柱管の一部が狭くなってしまい、神経を圧迫することで腰痛や足のしびれ・痛みを引き起こしている状態が、腰部脊柱管狭窄症です。加齢に伴って起こることの多い疾患で、高齢者の10人に1人が罹患し、外来診療をしていると毎日のように患者さんが来られます。

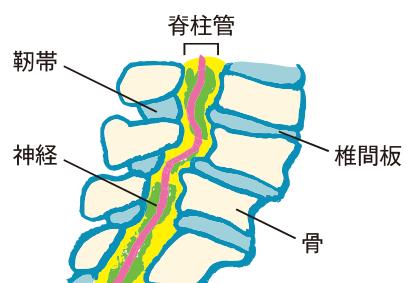
脊椎は骨と骨の間に椎間板や黄色靭帯によって連結されており、椎間板はクッションのような役割をもっています。腰部脊柱管狭窄症は、この部分が加齢に伴って摩耗し、靭帯がたわむことで脊柱管が狭くなってしまう疾患です。誰にでも起こりうる疾患とも言えるでしょう。

症状としては腰痛や足の痛み・しびれなどが挙げられます。中でも間欠性跛行(かんけつせいはこう)と呼ばれる症状が典型的で、少し歩く⇒足がしびれて痛む⇒休む⇒また歩けるようになる…これを繰り返します。前傾姿勢になると脊柱管がゆるみ、痛みやしびれを感じにくくなる

●脊椎の模試図



腰部脊柱管狭窄症の状態



ため、「歩行は困難でも自転車は問題なく乗れる」といった患者さんのお話からも、脊柱管狭窄症を疑うことができます。

—目立つ症状などはありますか。

症状の出方から、両足がしびれ先述の間欠性跛行を呈するもの（馬尾型）と、左右どちらかの足が痛み、生活に何らかの支障が生じるもの（神経根型）、あるいは両者の組み合わせ（混合型）の三つのタイプに分かれます。特に馬尾型では、症状が重くなると尿漏れなどの排泄障害も引き起こす場合があります。男性の場合、前立腺肥大を疑って泌尿器科を受診したが、よくよく調べたら腰部脊柱管狭窄症による排泄障害であったという事例もみられます。いずれも命にすぐに関わるものではありませんが、生活の質に関わる大事な症状ですので、気になることがあればすぐに受診していただければと思います。

—検査や治療方法はどういったものがありますか。

患者さんの生活の様子や痛みの部位・筋力の落ち方によっ



て、ある程度診断の目星が付けられます。その上で、MRIやレントゲンといったスタンダードな検査を行います。補助としてCTや脊髄造影検査を活用して診断をつけます。

当院のような急性期病院で行われる主な治療方法としては、①薬物治療②ブロック注射③手術の三つが挙げられます。

薬物治療とブロック注射では、患者さんの感じる痛みやしびれの原因となる神経の炎症を落ち着かせることを目的としています。神経由来の痛み・しびれに対する神経障害性疼痛治療

寝たきりのリスクが高い脊椎圧迫骨折。 患者さん一人ひとりに合った、様々な治療法があります。

背骨が何らかの要因で骨折した状態を「脊椎圧迫骨折」と言います。骨粗しょう症など、骨強度が低下した高齢者が多く、尻もちをつく、重いものを持つなどのきっかけで発症しますが、気づかず背中が折れていった（「いつの間にか骨折」）、というケースも珍しくありません。圧迫骨折に伴うつらい痛みの傾向として、特に起き上がる動作が困難になりやすく、寝たきりになるリスクが高まります。痛み止めやコルセットのほかに、セメント治療（骨折した部位に針で医療用セメントを注入し、安定化させることで痛みを軽減する方法）も有効です。全身麻酔が必要ですが、創は2ヶ所の針穴程度で、入院は数日です。当院の脊椎センターには様々な治療

選択肢があるということを患者さん・ご家族にも知つていただき、圧迫骨折の痛みでお困りの方についても、是非一度受診を検討いただければと思います。



薬を中心に使用し、この段階で症状が改善する方も少なくありません。ブロック注射は、仙骨にあいた小さな穴（仙骨裂孔）から薬剤を注入する痛みの少ないものや、神経根ブロックが比較的よく行われます。ブロックの効果は患者さんにより異なります。担当医とよく相談しましょう。

術後の負担が少ない 「最小侵襲手術」を目指して

—「脊椎の手術」と聞くと、かなりの大手術になるイメージがあるのですが…

以前は処置が必要な部分を大きく切開して、脊椎をむき出しにするような方法での手術が広く行われていましたが、近年では、病態に応じ内視鏡を用いながら比較的小さな切開で手術をすることが可能になっています。総じて、筋肉や組織のダメージが少なく、術後の回復が早いのが特徴です。

こうした手術手技の進歩によって患者さんの負担を減らし、早期の回復・社会復帰を可能とする方法を、手術の「低侵襲化」と言います。三井記念病院では以前から手掛けている顕微鏡、ナビゲーション手術に加え、患者さんの病状に応じて、低侵襲手術を積極的に取り入れています。

脊椎手術には除圧術（部分的に骨を削り、神経を圧迫している部分を取り除く方法）と固定術（不安定になった脊椎を安定させる）、その両方を組み合わせて行う方法があり、主に頸椎～腰椎～骨盤までを扱います。こうしたバリエーションのある術式に対し、これまで先輩方が力を入れてきた分野を受け継ぎながら、医療技術の進歩に合わせたフレキシビリティのある診療を心がけてまいります。

他科との連携を活かした治療

—今後の展望を教えてください。

前述のような脊椎自体の疾患に加え、がん患者さんの中

で、がんが骨に転移する「骨転移」という病態にも積極的に取り組んでいます。骨転移は、全身の骨の中でも脊椎に発生する頻度が高く、乳がん・前立腺がん・肺がんの患者さんに特に多くみられます。背骨でがん細胞が増殖することで、骨破壊による痛みだけでなく、神経圧迫による四肢のしびれや運動障害を引き起こす恐れもあります。また、骨転移のような、がん自体による運動障害に加え、がんの全身治療によって骨・関節・筋肉・神経などの運動器に何らかの障害があらわれ、日常生活に必要な動作機能が低下した状態を「がんロコモ」と言います。さらに、この「がんロコモ」には、高齢者に多い変形性関節症や腰部脊柱管狭窄症など、がんによらない運動障害も含まれます。そのため、がん患者さんにおいては、手足のしびれや痛みが発生した場合、加齢によるものなのか、骨転移由来なのか、或いは治療に伴う副作用によるものなのか、見分けが難しい場合がしばしばあります。したがって、がん患者さんが抱える運動器の問題に関しては、整形外科医がこれまで以上に積極的に介入し、他科の先生方と症例を共有することが重要です。この点、三井記念病院の強みの一つでもある、科の垣根を超えた連携が活かせると思っています。入職してまだ数ヶ月ですが、今後、がん治療を担う科の医師や医療スタッフと協力し、がん患者さんのQOL向上につながる取り組みにも携わっていきたいと思います。

安野先生が
解説

ここがポイント!

- ① 病態に応じて積極的に身体の負担が少ない低侵襲手術を選択しています。
- ② 内科医、麻酔科医の強力なサポート体制があり、内科的合併症をお持ちの方も安心して手術が受けられます。
- ③ 脊椎転移など、がん患者さんが抱える様々な運動器障害に対し診療科横断的に対応してまいります。

みつい
ひみつ

病院内探検ツアー

NO.01

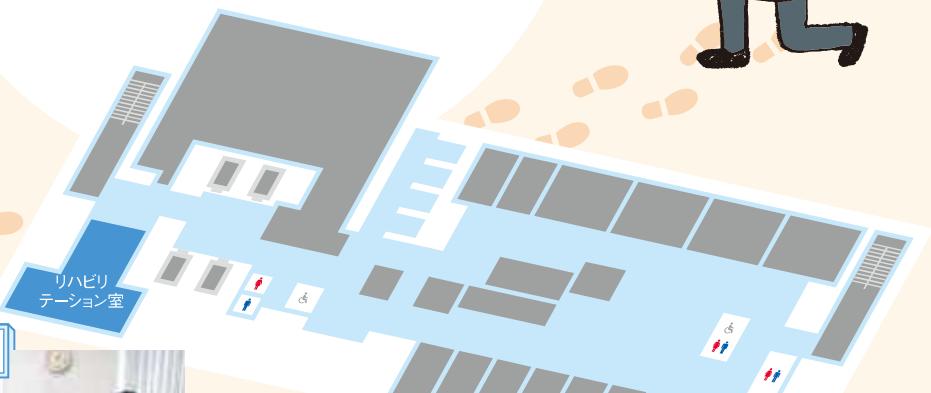


三井記念病院には、機会が無いと入れない特別な部屋がたくさんあります。

中にはちょっと変わった機器や設備も…?

このコーナーではそんな珍しい部屋をご紹介します。

入院棟 7F



理学療法室



言語聴覚療法室



理学療法室



作業療法室



膝が痛い?
腰が痛い?
その悩み…
ストレッチで解決!!

練習用の階段も
あります。
ホップ!ステップ!
ジャンプ!



アクリルコーンを使用した
手のリハビリです。
大切な人とまた
手をつなげるよう…

外来棟 4F



案内人

理学療法士

田中 秀輝

当院では、入院棟に理学療法室と言語聴覚療法室、外来棟に理学療法室と作業療法室があります。手術後の合併症予防、身体機能、日常生活動作回復及び低下の予防を目的に手術後や入院早期よりリハビリテーションを行っています。特にがん患者さんや心疾患呼吸器疾患などの内部疾患の患者さんに関わるリハビリテーションにも多く携わっています。

三井記念病院の登録医紹介

32

秋葉原・胃と大腸肛門の内視鏡クリニック

秋葉原駅から徒歩1分の場所に位置する「秋葉原・胃と大腸肛門の内視鏡クリニック」。土日の検査・診察対応や24時間ウェブ予約が可能など、患者さんが「受けやすい内視鏡検査」の提供に力を入れています。昨年1月に本クリニックを新たに立ち上げた早坂院長にお話しを伺いました。



Interview
早坂 健司
クリニック総院長(管理者)



- 住 所：東京都千代田区神田佐久間町1丁目13 チョムチョム秋葉原ビル9階
- T E L：03-3251-7149
- 診療内容：胃腸科・消化器内科・内視鏡内科・肛門外科・肛門内科
- 診療時間：月～土 9:00～12:00、14:00～17:30
日 9:00～12:00、14:00～17:30
(日曜午後は予約検査のみ)
- 休 診 日：祝日のみ休診
- U R L：<https://www.akihabara-naishikyo.com>

— 医師を目指したきっかけと消化器内科を選んだ理由を教えてください。

父親が医師だったこともあり、小さい頃から人を治す・助ける職業に就きたいと思っていました。消化器内科を選んだ理由は、家族や身近な人が困っている時に助けられる医師になりたいと思っていたことと、大学の臨床実習で内視鏡を触らせてもらった時に面白いと思い、また内視鏡検査を行うことによって、がんの早期発見・治療ができることに魅力を感じたためです。

—クリニックの特徴を教えてください。

一般的に内視鏡検査は「つらいもの」と感じている方も多いのではないでしょうか。胃カメラで苦しい思いをしたり、大腸カメラであれば下剤を服用して数時間待機する必要があったり…しかしながら、内視鏡検査によって胃がんの原因になるピロリ菌感染性胃炎や、大腸がんの原因となることがある大腸ポリープなどの疾患を発見することができます。特に大腸ポリープは自覚症状がないため検査を行わないと発見ができません。早期発見・予防という観点から多くの人に受けてほしいと思っています。

だからこそ当クリニックでは、患者さんが来ていただきやすくなるような環境づくりに力を入れています。

胃も大腸も鎮静剤を用いた内視鏡検査を基本としているため、患者さんは寝ている間に検査を終えられます。また、前述の通り大腸検査の前には下剤を服用しますが、自宅での内服が不安な方もいらっしゃるかと思います。当クリニックでは専用トイレつきの待機用個室を11室用意しております。何かあった場合もスタッフがすぐに対応できますので、安心して準備いただけます。

— 来院される患者さんの傾向などはありますでしょうか。

コロナ禍以降、機能性ディスペプシアや過敏性腸症候群といったストレスに起因する疾患が急増しました。また、ここ秋葉原はビジネス街ということもあり、働き盛りで検査に来る時間も惜しい、という方も多いです。当クリニックは土日も含めて毎日診療^{*}していますし、午前中に内視鏡検査を終えられる枠もあり、検査結果も基本的に即日お伝えするようにしますので、患者さんの生活にフィットしたサービスを提供できていると思います。

万が一検査結果で気になる症状が見られた場合でも、緊急性の高い症状については三井記念病院さんに紹介させていただき、可及的速やかに精密検査を受けていただくことができます。こうしたフットワークの

軽さを活かし、様々な疾患に対応できるよう心掛けられています。

— 地域医療連携についてのお考えをお聞かせください。

三井記念病院さんは地域の皆さんからの信頼も厚く、しっかりした治療が受けられるので患者さんにも一番紹介しやすいです。投薬やポリープの切除など、プライマリーな治療は当クリニックで対応しながら、より高度な治療が必要な部分は三井記念病院さんでバッカアップしてもらえるということが、患者さんの「ここにくれば治る」という安心感に繋がっていると思います。

— 今後の展望を教えてください。

クリニックの立ち上げ以来、次第に口コミも広がって、内視鏡検査に来ただけの患者さんも増えています。今後は近隣の人間ドックなどと連携し、働いている人のサポートにも役立つような、より一層地域に密着した活動を増やしていきたいです。



専用トイレつきの待機用個室。タブレットで動画が見られるなど、患者さんがリラックスできる空間となっている。

MMH NEWS

三井記念病院では、患者さん向けに各種イベントを開催しております。

参加無料になりますので、ぜひご参加ください。

メモリーカフェ

認知症疾患医療センターでは、もの忘れや認知症について参加者同士の交流、専門家から情報提供する場として毎月第4金曜日にメモリーカフェを開催しています。認知症の有無に関わらず、ご家族の方、関心のある方、ちょっと気になる方、どなたでも予約不要でご参加いただけます。



URL <https://www.mitsuihosp.or.jp/division/support/dementia/>

いづみサロン

がん相談支援センターでは、がん患者さんやご家族同士が「語り合う場」としていづみサロンを開催しています。病状や治療の状況、現在の悩みや困っていること、頭から離れない考えを声に出してみませんか?がん相談支援センターの相談員が皆さんの交流をサポート致します。途中参加・途中退室も自由ですので、お気軽にご参加ください。



URL <https://www.mitsuihosp.or.jp/division/department/cancer/tomoiki/index.html#izumi>

腎臓病教室

腎臓内科(血液浄化部)では、腎臓病に関する情報発信として、年に4回「腎臓病教室」を実施しております。医師をはじめ、看護師、栄養士など様々な職種から腎臓病に関わる内容を分かりやすくご説明させていただきます。会場の他、Webでも実施しておりますので、お気軽にご参加ください。詳しくはホームページや院内に掲示するご案内をご参照ください。



URL https://www.mitsuihosp.or.jp/media/jinzoposter_2024.pdf

2023年1月～2023年12月

皆さまから貴重なご寄付をいただきました

▶個人

大木 賢一様
佐藤 百代様
長谷川 正史様
大島 節子様
中園 智昭様
吉原 勝美様
鈴木 恵美子様
岩上 利夫様
宮崎 豊彦様

夏目 滋 様 細田 卓次郎様 峯原 秀夫様 石渡 光男様 川端 佳正様 佐藤 義昭様 松浦 誠美様 金子 昌男様 西浦 善彦様 日下 健治様

磯 弘治様 ZENG GUOFAN 様 木村 稲子様 内田 功夫様 浦 孝雄様 渡邊 純子様 堀内 啓子様 菊川 勢以子様 田中 道子様

▶法人

一般財団法人 三井報恩会
株式会社 タスクオブチカル
株式会社 キングジム
株式会社 菱善
一般財団法人 凸版印刷 三幸会
三井グループ350周年記念事業
実行委員会(三井グループ25社)

▶匿名希望 33名 (順不同)

※当法人への寄付は、社会福祉事業のための寄付金として税制上の優遇措置が適用されます。詳しくは当院経理課までご相談ください。



社会福祉法人

三井記念病院

〒101-8643 東京都千代田区神田和泉町1番地 TEL:03-3862-9111(代表)



三井記念病院
ホームページ

